

自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会
自動運転企画分科会（第25期・第4回） 議事録

日 時 令和3年12月24日(金)10:00~12:00

会 場 ハイブリッド開催（ZOOM）、日本学術会議5階 5-A（1）（2）会議室

参加者 永井、大倉、鎌田、中野、宮崎、遠藤、須田、藤井、有本

議 題

（1）学術フォーラム開催を受けた今後の方針について

幹事の中野が作成した事後報告は、協賛・後援団体等に提出されるほか、学術会議 HP で公表される。特記事項に、提言に反映させる予定、「学術の動向」への掲載を予定、橋本町長の参加、に加え、視聴登録者数、総再生回数なども書いた方が良いとの意見があった。学術の動向は、今回のフォーラムの内容でまとめる形にし、意思の表出につなげる。

映像記録は残っているので、登壇者の了解を得られれば、委員会内で URL を共有することは可能。フォーラム資料は一般公開が続いている。今回は、登壇者の了解をとって限定公開を目指す。今後は、事前に、公開方法について了承を取ることとする。

次のフォーラムは、1年後くらいの開催を目指して、テーマと中身を検討することとした。7月頃の安全工学シンポジウムへの対応も考える必要がある。カーボンニュートラルの話題を加えた OS を提案することとした。1/14 までにテーマと趣旨を決めて申し込みを行い、内容は3月くらいまでに決めればよい。

（2）25期の提言のあり方について

24期に出した提言のフォローアップ（インパクトレポートの作成）の依頼が来て、対応した。自動車技術会会誌に掲載された唐沢先生の記事の件を追加する。RoAD to the L4 シンポジウムのところの表現を修正する。その他、必要なことを、委員長と幹事で修正していくこととした。

道交法の改正が公表され、レベル4の実装に向けて動きだしたが、インフラ協調など技術面においても、まだやるべきことがある。さらに、自動運転を活かすためのルール作りを考える必要がある。住みたいまちづくりという視点も大事であり、ふるさと納税を活用するとか、実現への財源の問題もある。社会デザインを考えた時に、まだまだ議論すべきことは多い。

提言の位置づけが変更になった。委員会レベルで出すのは、見解となる。新しい考えで提言として出すことを目指す。年明け早々に、永井委員長と菱田副会長とで面談し、今後の方向性や体制を決めていただくこととする。

（3）その他

課題別委員会の次回については、3月後半から4月頃の開催に向けて調整する。話題提供については、警察庁でのレベル4に向けた議論や都市デザインの話題を候補にして調整を

進める。

小委員会は1月2月3月と毎月開催予定。JST RISTEX の ELSI 統括でもある唐沢委員からは、自動運転のプロジェクトが ELSI のけん引役になることが期待されている。小委員会を、課題別委員会の先生方が傍聴できるように、開催案内を流すようにする。議事録にはオブザーバとして名前を残すこととする。

(議事録作成：幹事 鎌田，中野)